

大学図書館問題研究会 京都

京都市左京区吉田本町

京都大学教育学部図書室

(竹村心気付)

TEL 075-753-3013 (直通)

大図研京都支部第12回総会記録

1989年10月14日(土)午後2時より京大職員会館で支部総会がひらかれました。

支部長の挨拶にはじまり、事務局長より支部活動の総括と方針について報告を受け、財政担当者より決算、予算の報告の後、討論にはいりました。参加は京都大学、龍谷大学、立命館大学、同志社大学で、現場の実情、研究活動の苦勞談等が話あわれました。5時に討論を終え、1号議案、2号議案が採択され、新役員を選出し、閉会しました。総会后、同じ会場で、なごやかに懇親会がおこなわれました。

議事の記録

(同志社大学) 来年4月より学術情報センターと接続する。1982年より同志社MARC、20万件の独自開発をしてきたが、維持管理が困難なことから学情センターへ入力することになった。同志社MARCは、学情へ変換して入れる予定である。現場では、今、整理のベテランが機械にくわしくないことから、ベテランの意向が反映されない状況がある。検討委員会があるが、空洞化している。レファレンス業務にしても、同志社は集団的力量を身につけるようにしてきたが、機械に強ければ解決という風潮がある。現場が意欲的にとりくめる条件を如何にしてつくるかを、大図研の班として具体的な方針がだせればよいと思っている。

「求める資料を求める人の手に」の方針について、個々の会員にとってどう受け止めるのか、この問題は本当に追求していくべき問題だ。相互利用の記録をとり収集方針に反映させるとか、自館にもっている資料を迅速に発見して利用者の手にわたるようにするとか等、個々に仕事の中でどのような問題があるのかを洗い出す必要があるのではないか。

(立命館大学) 今年9月13日から学情センターと接続を開始した。学内LANについてもかんがえていこうとしている。ただ、一方では、書庫が満杯で、理工学部

移転に伴う新館建築の問題も大いにかかわり、学生や研究者のニーズに見合った施設づくりの問題を考えなければならない。

班活動は人事異動で停滞している。大図研ゼミナール資料組織論については、論文をだそうとしていたが、執筆がとまっている。議論の中身は、白書に反映できるようにしたい。年報は、やっと枠組が出来た。いま、調査は5つ来ている。(龍谷大学)今年4月、瀬田に理工学部と社会学部ができた。龍大の図書館として、現在、書庫問題と夜間問題がある。3年前から深草の図書を大宮へもっている状態で、大学構成員に対するサービスの点からもスペースの問題は重要である。4月に図書館建築委員会が発足し、プロジェクトをつくり図書館見学等をしている。また、相互協力の面も充分考えなければならない。夜間開館は、現在8時までバイトでまかなっている。専任職員も常に付く体制になっているが、12時から8時の勤務体制で3週間に1回まわってくる。大宮は職員が7名なので、負担が大きい。瀬田図書館も4名で8時まで開けるという議論があるが、結果としては、今6時までとなっている。職員にとっては、重い問題である。今後、人事異動でどういう形になるかわからない。

(京大数研) 国大図協で図書館施設の整備拡充について、文部省への要望とか、ワーキンググループなどをつくっているが、大図研でも施設研究集会をもって、大学図書館の面積について検討することが計画されている。現場からみた、利用スペース、収蔵スペース、業務スペース等のあるべき基準面積の考え方について京都でグループをつくって取り組んではどうか。どことも書庫の問題は相当深刻だと思う。

(京大文学部) 書庫の問題では、一番切迫している。

(京大教育) スペースに悩んでいる。文部省は1大学1図書館という考えから、京大のように大きい学部図書室の問題を軽視している。1つの図書館としての視点で考えてもらわないとこまる。

(立命館) 大学図書館の面積と電子図書の問題とのかかわり、保存政策、酸性紙問題、光ディスク、マイクロフィルム、フィッシュの保存の検討、複本と廃棄基準の問題、いろいろ検討しなければならない。また、国公立もふくめてデポジットライブラリーの問題も考えなければならない。

(京大教養) 京都大学も現在、廃棄基準を検討している。

(支部長) 研究活動についてのべる。個人の努力の問題もさることながら、組織としてどう取り組むかが問題である。課題のみ何とかしなくてはと追われて

いる。普段日常的にどう行うか。しかし、家に帰って勉強よりもついついテレビを見てしまい、その繰り返しでむつかしい。興味もてる事をどんどん打ち出してやっていくべきだ。

(京大副班長) 班の研究活動についてのべる。京大は会員73名で大所帯だ。例会は、月1回、各部局から選ばれた幹事8名でおこなっている。研究学習活動として、参考図書グループ、索引研究グループの活動、談話会、講演会をやった。講演会は、仕事の仲間からやってもらおうということで、第1回は竹本さんに、2回は広庭さんに講演していただいた。3回は、高橋専門員にお願いしてる。

大沢さんにもお願いしている。貴重な体験談等を聞かせてもらいたい。また、支部報の各号に京大の職場からのエッセイをのせてもらうことになった。職場の生の声を定期的のにせたいと思っている。学習研究活動は、意欲は高いが、なかなか進まない。参考図書グループには頭がさがる。しつこさが必要だ。大学図書館の将来像も自分達で造るべきで、「図書館塾」をやってはどうか。

(京大法) 会費を払う時に、私も会員だなと思うくらいで、なにも研究活動ができていない。なんせ、組合活動がいそがしくて。いま、定員化問題にとりくんでいる。職員が少なくなってきた中で仕事の見直しの時期にきている。学習活動としては、来月から週1回、教授をよんで、職場でドイツ語を勉強することになった。

(参考図書G) 大沢さん退官記念論文集作成に半年間、勢力的にとりくんだ。今、言語辞書の京都大学所蔵リストをつくるために、みんなで調査している。スローガンだけでなく、組織として、みんながレベルアップしなければならない。

(京大附属図) 附属図書館では、定員とパート職員とが同じ仕事をしている。組合の話になるが、組合としても、なんとかパート職員にボーナスをと、がんばっているところです。

大図研の研究活動については、研究担当として述べます。来年3月群馬で「全国研究集会」が開かれます。中身は、大学図書館職員の継続教育を核にしたテーマです。また、「利用のための整理と保存」の問題では、学術情報システムの機械まわりのことのみ目がいつているが、本当に利用者のための整理はどうかを考えなければならない。また、機械からはなれて、本格的に主題分析の研究集会をもつことを計画中です。

(議長) もっと議論をしたいのですが、残念ながら、時間がきましたので、これで終わります。酒井委員長は今日、政策委員会の方に参加されていますので、懇親会におみえの時に委員長挨拶を受けたいと思います。

1989年度支部役員

支部委員

篠原俊夫	京都大学医学部図書館
堤 豪範	京都大学数理解析研究所図書室
竹村 心	京都大学教育学部図書室
竹本文夫	同志社大学人文科学研究所
大沢紀子	京都大学附属図書館
村上美代治	龍谷大学図書館
若井 勉	立命館大学図書館
小林倫道	橘女子大学図書館
大館和郎	京都学園大学図書館

会計監査

池田千恵	京都大学文学部図書室
中嶋スエ子	京都大学工学部航空工学図書室